

林大だより



第84号 令和4年10月31日

長野県林業大学校翌桧会



2学年 5月 山の環境学（上高地）



2学年 6月 北海道研修（大雪山）



1学年 4月 屋久島研修

さあいさつ う林大生、無事に頑張れ！

翌桧会 会長 上田 浩之



だろうと引き受けましたが、平和で無事に本年度が終了してくれることを願うばかりです。

丸山校長先生はじめ林大関係者の皆様には、昨年と変わらず更に生活に深く入り込む様相の新型コロナウイルス感染症と闘いながら学校運営を、日々気を遣いながら子ども達と関わっていただき、本

不安を救う言葉

長野県林業大学校 校長 丸山 勝規



今年度、会長に選出されました上田です。地元の木曽、開田高原に暮らしているため、実質的な距離は学校に近く、何かあればお力になれる

月に供用開始となりました。この間、予算、設計・監督、工事に関わった全ての人に心より感謝を申し上げます。新寮は木曽地域の木材をふんだんに使用しており、給湯・暖房には地元産の木材チップを燃料にしたバイオマスボイラーを利用しているなど、「木にこだわった」寮で、本校にふさわしい魅力的な施設

開校以来四十三年間使用した旧男子寮は老朽化が進み、耐震性も不足していたので、令和三年度に新しい男子寮の建設工事が実施され、この四

当に感謝しています。

四月に一年生を迎える約半年が過ぎました。この間に最も、屋久島研修等様々な研修を実施していただき、コロナ対策等難しい情勢の中で良い学習をさせていただいております。

コロナウイルスが猛威を振るう一方で、近年の災害の多さは目を見張るものがあります。特に台風等大雨による災害の甚大さは、山々に囲まれた長野県でさえ被害に見舞われています。開発され地耐力の弱った都市部に比べて、

です。先日、オープンキャンパスに参加した高校生親子が新学生寮を見学した際に、皆さん「いい寮ですね」と褒めてくださいました。林業志す多くの若者が集う寮になることを願っています。

さて、本題に移ります。不安を救う言葉とは、中学時代の恩師が教えてくれた言葉です。それは、「不安な気持ちで押しつぶされそうな時は、軽くなりました。自分で解決できないことなら相談することができないことなら相談する」とでも不安を軽くできます。皆さんも何となく不安で気が晴れない時に試してみてください。

もう一つ、就職するに際し

木々が生い茂り豊かな水流と過度の近代化の無い町部でさえ被災する近年では、我々大人では考えられない事を研究し、新たな林野の在り方を見出し実際にできる一つが、林業大学校、林大生のこれからだと思います。

新たな寮も完成し、居心地も良いと聞いています。私の周りにも林大の卒業生がいますが、皆が口を揃えて「寮生活はかけがえのないものだ」と言います。生涯の友を作ると子ども達も同じように、新しい寮で充実した生活を送っています。

終わりに、翌桧会も林業大学校と学生を全力でサポートしていきます。私も「無事に頑張れ」と応援していきます。保護者の皆様には引き続き今年度の翌桧会の運営にご理解とご協力を願いいたします。



伸びしろしかない

中部森林管理局長

関口 高士



希望あふれる学生の皆さんに今更聞くのは野暮かもしれません、林業にどのようなイメージをお持ちでしょうか。



林大生への期待 「地域の一隅を照らす『人財』」に

佐久森林組合 代表理事専務

小島 和夫

性・効率性を求めるることは必要ですが、これが行き過ぎ、環境への配慮を欠くと、水源の涵養、災害防止や生態系の保全など、森林の持つ「公益的機能」への影響が懸念されることになります。

林業は、経済活動と環境保全という二つの面を持つています。グローバル化・低コスト化が進み、厳しい状況が続

く、経済活動として、生産面だけでなく、「SDGs」持続可能な開発目標の面からも注目・評価されていま

私は平成十六～十七年度にかけて林野庁で森林・林業白書の担当をしていましたが、当時、白書で紹介したのが最先端とされていた日吉町森林組合の取組でした。これは、組合員が所有する森林について、間伐にかかる費用と間伐材販売による収入、さらに補助金の額を示して、このくらいプラスになるので、間伐を

実施しませんか、と提案するというものでした。

皆さんからすると大昔のことかと思いますが、一般的な商取引の現場では、見積

とですか、「ふーん」といって前ならもつと前）から当たり前なわけです。その一方で、林業では「現場はそれぞれ違うからやってみないと分からない」という理屈の下、かなり多くの場合、所有者が頼む、請負業者がやる、その結果に基づいて現金のやりとり

りがある、以上、という素晴らしい信頼関係の下での危険なギャンブルが行われてきていたわけです（だから日吉町森林組合の取組が画期的と言わわれた）。

今は、さすがにもうちょっと近代化されているはず（断言できないのが悲しい）ですが、「現場はそれぞれ違うから」とか、一歩進んで「現場でいちいちそんなこと」といった理屈が、安全面を筆頭でいろいろ改善を拒んできたように思います。言い換えれば、フラットな目で見れば、

す。加えて、作業の機械化やITを活用した調査や情報処理技術の導入も急速に進んでおり、これに応えられる知識と経験を持った若い「人財」が求められています。

ます。

比叡山の開祖、最澄上人

は、「一隅を照らす、是即ちなつた対応が求められます。このためには、今まで学んだ知識を基礎に、様々な経験を積むことが重要になるため、当組合では、一定の間、技能職員として現場作業に携わってもらうこととしています。

また、林業には、地域の経済活動として、森林所有者や木材関係、行政など、地域の人材育成機関として

結びに、長野県林業大学校が、林業の人材育成機関としてますます発展されるよう、こうした方々と連携・協力することが、林業ひいては地域の発展を図る上で重要な役

林業には改善の余地がものすごくある、ということになります。

結局現場を変えられるのは人です（日吉町森林組合も外部の方が入って変わります）。皆さんが今後良い職場を選び（良い職場ほど改善が進みます。また、選ばれない職場は危機感を持ちます。最近、公務員も選ばれない側でいちらず、新たな目で林業界を変えていくことを期待しています）。

人です（日吉町森林組合も外部の方が入って変わります）。皆さんが今後良い職場を選び（良い職場ほど改善が進みます。また、選ばれない職場は危機感を持ちます。最近、公務員も選ばれない側でいちらず、新たな目で林業界を変えていくことを期待しています）。

あすなろの喰

つぶやき

学校・寮生活カラ

林大に入学して



1学年 有村 凌空

長野県林業大学校に入学し、新しい寮での生活も六ヶ月が経ちました。初めての寮生活など、新しい生活に不安な日々を送っていました。初めた。仲間と一緒に生活していくうちにだいぶ慣れてき



1学年 4月 城山登山

私が林大に入学してから約半年が経ち、入学当初より段々とこの学校の生活に慣れました。

私はこの学校に来るまで林業というものにあまり触れる機会がありませんでした。未だに色々なことに挑戦する毎日です。林大に入学してから私は一番印象に残っていることは屋久島研修です。屋久島には入学して間もない頃に行



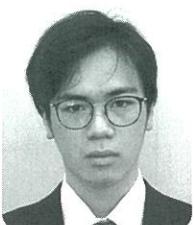
1学年 鈴木 優也

ました。入学してすぐに屋久島研修に行きました。登山は雨のために途中までしか行けませんでしたが、木曽とは違う植生が見られたり、仲間との絆を深めることができ、忘れられない思い出になりました。勉強面では、新しく覚えなければいけない知識や技術が多く大変ですが、毎日実習

などを通じて楽しく身につけています。特にチェーンソーの実習は、自分のチェーンソーを使って目立てをやつたり、基本の伐り方を何回も練習してできるようになつていくのが楽しいです。

今後は、寮祭などのイベントは全力で楽しみながら、進路も考えていくようにし、林大生活を満喫していきたいです。

林大を振り返って

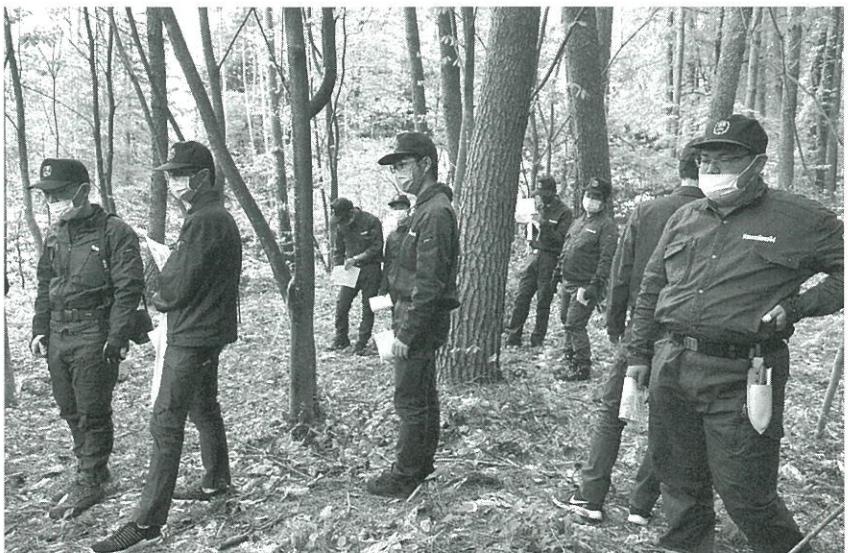


1学年 小松 隼人

から的人生でおそらく体験できないことをたくさん体験できました。そして何よりお互いに助け合うことで絆を深めうことができました。研修を通してできた関係はきっと今後の生活においてとても大切なものになると思います。

林大はとても個性的できっと退屈しません。是非林大といふ唯一無二の環境に身を置いてみてはいかがですか。

四月に私たち四十四期生が入学して早くも六ヶ月が過ぎました。最初は初めてのこと



1学年 5月 特用林産学



が沢山で、特に寮生活は正直不安でしかなかったです。ですがこの半年でだいぶ慣れて、休日に遊びに出かけたり、放課後に筋トレしたり、とても楽しく過ごせ正在同期の人や優しく接してくれた先輩には感謝しかないです。しかし楽しいだけでは終わらないのが学生で、一般教育の授業や行事があるたびに出席されるレポートの多さには毎回苦しめられます。わからぬところは仲間と助け合いでできるところも、寮生活のいいところだと思います。

これから一年生の後期が始まり、より忙しくなります。が、就職も近づいてきていますのでより一層勉強に力を入れ、日々の講義と実習を大切に着実に知識を身につけていきたいです。また、来年には私たちが先輩となり後輩の手本になる立場です。そのためにも日々の生活にメリハリをつけ気を引き締めて、残りの時間も林大で楽しい思い出を作りたいと思います。

かなかかからず苦戦しました。しかし、授業が進むに

始動できるようになります。こんなふうに自分の成長が実感できるのがとても楽しいです。現在は受け口をつくる練習をしていて、正確な水平切りと斜め切りは難しいです。これからどんどん練習していきたいと思います。



1学年 6月 造林学

林大に入学して

1学年
日比谷 巧

私が林大に入学してから半年ほど経ち、寮生活にも慣れました。入学当初は同室の人と話せるか不安でした。が、今では自然に会話できるようになりました。また、勉強面に関して

一年目の後半は、私たちの自主研究が全く進んでいないので、仲間と相談し、これから予定をつめて動いていきたいと思います。

も不安はありませんでしたが、初めてのテストで高得点を得たことで自信がついてきました。特に印象に残っているのは、林業機械学の実習です。初めてのエンジン始動ではなく、なかなかからず苦戦しました。しかし、授業が進むに

してから六ヶ月が過ぎ、林大での生活にも慣れてきました。入学して早々に新型コロナウイルスの感染により学校閉鎖、同級生の顔も名前も知らない状況での隔離生活は大変でした。隔離が終わり、寮生活に馴染めるか不安でした。が、仲間たちとともに勉強していくうちに話せる友達も増えていき、最初に抱えていた不安はすぐに無くなりました。最初は林業についてさっぱりわからない私でしたが、実際の現場で働く講師の先生方のおかげで少しずつ理解できる

つれて慣れていき、スムーズに始動できるようになります。こんなふうに自分の成長が実感できるのがとても楽しいです。現在は受け口をつくる練習をしていて、正確な水平切りと斜め切りは難しいです。これからどんどん練習していきたいと思います。



1学年 7月 林業概論（赤沢美林）

林大に入学して

1学年
森川 晴仁

私たちが四月に林大に入学してから六ヶ月が過ぎ、林大での生活にも慣れてきました。入学して早々に新型コロナウイルスの感染により学校閉鎖、同級生の顔も名前も知らない状況での隔離生活は大変でした。隔離が終わり、寮生活に馴染めるか不安でした。が、仲間たちとともに勉強していくうちに話せる友達も増えています。最初はすぐに無くなりました。最初は林業についてさっぱりわからない私でしたが、実際の現場で働く講師の先生方のおかげで少しずつ理解できる

ようになってきて、日々の授業がとても楽しいです。これからは一年生も折り返しどうで始めることあります。後半は寮祭や駅伝大会もあります。イベントの準備から運営など、真面目に取り組みしっかりと楽しみたいと思います。授業もさらに専門的になっていくと思うので、遊びも勉強も全て全力で楽しめるように、残りの林大生活も満喫していきたいと思います。

林業への志



2学年 江田 能教

「林業」という職業を目指すようになつたのは、私が中学生の頃だった。私がまだ幼かった時からよく山の中の現場へ連れて行つてくれた父の仕事姿に憧れたのはいつ頃に

一年半の 林大生活を経て



2学年
小瀬木 天河

私が長野県林業大学校に入
学して約一年半という月日が
経ちました。林大生活を過ご
して、私はここに来て良かつ
たと思っています。何故なら
最高の仲間に出会えたからで
す。

がとても多いです。そうした中で自分の醜い部分や相手とのそういうった部分が見えてきます。これは仲が悪くなる原因にもなり得ます。しかし私は仲をより深めるために大切なものもあると思います。お互の醜い部分が見えても、一緒にいることを選んだのならば、それは友達以上になれたのだと思います。

残り半年間という短い期間。最後の学生生活。無事、長野県職員大卒程度に林大生として初めて合格することができたので、仲間とのたくさんの思い出を作つて、悔いのないように卒業したいです。

二年生になつて



2学年
関 和真

林大に入学してあつとい
間に一年が経過し、私達も二
学年となり先輩となりまし
た。この一年間は本当にあつ
という間でした。最初は実習
が全然なくてほとんど座学で
戸惑いましたが、徐々に慣れ
ていきました。林大での生活
はストレスも多いですがとて

も楽しく、皆と協力し合う生活は、日々自分を成長させてくれています。

新一年生が入学してきて私達も先輩となり、一年生達には、分からぬことや困っていることを積極的に聞いて、楽しい林大生活を送つて欲しいと思います。また、去年の改善点を思い出して、残りの

私自身、就職先も無事に決
ましたので、残りの林大生活
で精一杯勉強して後悔のな
いようにしたいです。また
チエーンソーや林業機械の練
習も行い、就業後に即戦力と
なれるよう努力していくた
です。

2学年 4月 木材商業論

気付けば、林大で過ごすことが出来る時間も約半年となりました。入学当初は多くの



**2学年
中村 育野**

不安を抱えて新たな生活をスタートしました。特に、寮生活に不安があったのですが、四十三期の仲間とすぐに打ち解け、その不安はすぐに消えました。四十三期は十人十色であり、それぞれが自分の考え方を持つていて、自分には無いものを持っている人が多く、四十三期の仲間たちに出会えて良かったとつくづく思っています。

林大での生活を通して学んだことや仲間との思い出は書ききりませんが、林大で過ごした時間は貴重な時間となり、人生の糧となる時間でもあったと感じています。

残り半年間という短い時間の中で、林大で吸収出来るものを吸収し、卒業した際に悔いが残らぬよう全力で楽しんでいます。

林大での生活を通して



2学年 4月 林業機械学



2学年 6月 林業架線学実習（ワイヤー加工）

伐倒班として生活



**2学年
山岡 空**



2学年 7月 林業架線学実習

私がこの学校に入学して一年と半年が経過しました。これまでの林大生活を振り返るとチエーンソー以外思いつきません。一年の時から放課後にチエーンソー練習をしていて、十一月からは大会に向けて動いていました。同じ大会を目指す仲間とともに日没までエンジンを回し、夜遅くまで目立てをし、部屋でも競技の話をしていました。放課後だけでは足りず土日や長期連休中も先生方の協力を得て練習を行っていましたが、今思うと計画した私自身、かなりきつい練習計画だったなと思うこともあります。

が、私自身の就職活動はもちろん、三林大での優勝を目指して、やることは山積ですが、伐倒班で得たものを活かしていきたいと思います。

残り半年の林大生活ですが、私自身の就職活動はもうろん、三林大での優勝を目指して、やることは山積ですが、伐倒班で得たものを活かしていきたいと思います。

保護者の
ページ

夢に向かって

太田
功一

るためにも林大が適していると確信しました。二年間という短い学生生活。色々な知識や経験を活かし、樹木医という夢を叶えて下さい。最後になりましたが、お世話になっている先生方、林大関係者様に深く感謝いたします。

感謝を忘れずに

塩入ヶ谷吏佐子



息子が林業大学校へ入学して、早いもので半年が過ぎようとしています。初めは期待と不安で一杯でしたが、帰つて来るたびに成長している姿が頼もしく、楽しい学校生活を送っているんだなと安心しました。

息子は林業の道ではないですが、樹木医を目指しています。幼い頃から私と同じ造園業をやりたいと言い、そしていつからか樹木医を目指すようになりました。

息子は、幼い頃より、自然の大好きな子でした。テーマパークよりも、自然に触れられるデイキャンプをして成長してきました。

中学生の時、進路に悩む息子に、将来は好きなことを仕事にしてほしいと伝えました。そこで選んだのが、林産工芸科のある学校で学ぶことでした。



1学年 6月 トップガン研修

息子は、小さい頃から自然が大好きで、中学になるとパークレンジャーになりたいといふ夢がきました。林大への入学はまずその第一歩。森林の現状を知り、行動することを身につけるためです。しかし海外とは違い、今の日本ではその仕事は重視されておらず、非常に狭き門。普通に考えれば諦めてしまいそうな夢ですが、ブレることなく、志を高く、努力をしている息子を見ていると、移住をして起業を目指す私もとても勇気づけられます。

大阪から長野へ移住すると同時に子ども達の進学。知らない土地、友達も知り合いも全くないところでの受験、初めての寮生活、何もかもがチャレンジでした。

息子は小さい頃から自然が大好きで、中学になるとパーカレンジャーになりたいといふ夢がきました。林大への入学はまずその第一歩。森林の現状を知り、行動することを身につけるためです。しかし海外とは違い、今の日本ではその仕事は重視されておらず、非常に狭き門。普通に考えれば諦めてしまいそうな夢ですが、ブレることなく、志を高く、努力をしている息子を見ていると、移住をして起業を目指す私もとても勇気づけられます。

た。高校では、林家さん体験を通して林業に対する興味を深めていきました。そして、高校卒業後の進路を考えた時、就職か進学かで悩んでいた息子が、就職もできて学校にも通わせてもらえたと選んだのが、森林組合に就職し、林業大学校に通う道でした。

自分で選んだ道、今息子は生き生きしています。そんな息子の姿を見るのがとても誇らしいです。林大では、多くのことを学び、将来の林業の扱い手として貢献できるよう逞しく成長してほしいと思います。そして、先生方や仲間に支えられて今の自分があることを忘れず、感謝の気持ちを常に持てる人になってほしいと思います。林業大学

校の皆さん、二年間宜しくお願いいたします。

親子で新たなスタートとチャレンジ

遠近
瑞穂

山仕事の人になる！

洞地奈奈江



私も子どもも、チャレンジは始まつたばかり。これから様々なことを乗り越えていかなくてはなりません。沢山の方々と関わり、学び、感謝を忘れずに歩んでほしいと思います。

林大に通っている息子は男ばかり四人兄弟の次男。彼は小学校に通えなかつた時期がある。しんどかつたその時期に、近所の山仕事をの兄さんが炭焼きに誘ってくれた。火のこと、炭のこと、たくさんのこと、話をしてくれたそうだ。別日の日には枝打ちするから見にいと。そんな日々を過ごすうち、彼は「山仕事をする人になる」という目標を持つた。憧れる大人が近くにいるということはとても幸せなことだ。

「木曽路は全て山の中である」
島崎藤村の夜明け前の有名な一文ですが、私はその山の中の木曽に生を受け、林大から徒歩数分の場所で幼少期を過ごしました。親の仕事の都合で十二歳になる前に引っ越し



木曽との縁

吉原 剛

毎日を支えた。そして今、林大でたくさんの仲間に囲まれて充実した日々を過ごしている。つまずいた経験を乗り越えて自分の脚で前に進む彼を誇りに思っている。

ただ、会う度にムキムキになっていく身体と、おしゃれな服ではなく刈払機やチーンソーを欲しがる彼に家族は何度も大爆笑。好きこそもの上手なれ。がんばれ林大生!



1学年 9月 森林土壤学

退産業などと言われた時期もあったと思いますが近年では、カーボンニュートラル、ウッドショックなど取り巻く環境は大きくプラスになつているように感じます。そんな時期に林業を学べる彼を羨ましく思うと同時に、少しすこつ逞しく成長していく姿を見たかったのだと安堵しています。自然豊かな我が故郷で、本格的な講義や実習を通じて彼が大樹のように大きく成長することを期待します。

越してしまいましたが木曽は私の故郷です。その地を息子が学びの場所として選び林業を志すことを知り、嬉しさと共に不思議な縁を感じました。



何より楽しんで!!

井出 祐一

期待と不安を抱えて入学・入寮してから、あつという間に一年半が過ぎようとしています。学校生活はどう? 寮生

ばかりしていませんが、たまたま年に帰ってきた時の表情や話は楽しんでる? そんな心配

忘れず、残りわずかの林生生活を仲間と共に悔いのないよう

に送ってもらいたいです。

新たな挑戦

神田 真一

み上げ、私自身のテンションも上がったことを今でも鮮明に覚えています。どうやら中学校での職業体験で何か感じたものがあつたらしく、高校三年間でブレることなく受験・合格・入学したことは息子ながら尊敬に値し、毎日ふざけあつていたお父さんは少し恥ずかしいです。

学生の頃の寮生活経験は人

中学生の頃から林業に興味を持ち始め、高校生から親元を離れての寮生活。そこから息子の挑戦がはじまりました。初めての事ばかりで最初は心配でしたが、周りの先生方や先輩、仲間に助けていた

林大に入学して早二年が経



2学年 6月 不整地運搬実技講習

生の「宝」となる期間あります。コロナ禍り、苦楽を共にした仲間は一生涯の友人となり得るでしょう。学業は当然ですが、仲間と過ごした時間(できれば彼女もみつけてくれたらよかつた...)は、将来必ず人生で役にたち、良き思い出となることを信じています。残りわずかな林大生活、思いきり挑戦し、思いきり楽しんでもらえたら、親として嬉しく思います。

これからも感謝の気持ちを忘れず、残りわずかの林生生活を仲間と共に悔いのないよう

に送ってもらいたいです。とうとしています。コロナ禍で辛い思いをした事も、我慢する日々を送った事も沢山あったと思います。その中でも、将来の夢に向かって努力し多くの資格を取得したり、様々な経験をさせてもらった事は、息子がこれから林業の仕事をしていくにあたって、とても大きな事だと思いま

す。その知識を生かし、社会に出てからも失敗を恐れず挑戦し続けてほしいです。

これからも感謝の気持ちを忘れないで、残りわずかの林生生活を仲間と共に悔いのないよう

に送ってもらいたいです。

娘が気付かせてくれたこと

佐々木義輝



私は仕事で日本中を車で移動しています。娘の林業大学校への進学を機に、最近は山の木々や治山工事で伐採されている山肌など、今まで気にもしなかった風景に目が留まるようになりました。地方から地方への移動には、中山道のように山間の川に沿って走る道がたくさんあります。埼玉では昔、川を利用して江戸まで木材を運んでいました。現在の東京にも木場や新木場という地名があります。千葉には木下（きおり）街道という道もあります。このような水運や道もあります。



7月 新寮でのオープンキャンパス

娘が林業大学校に入学するまでは、林業は私達には縁遠い世界だと思っていました。ですが、日本の土地の大半は山林です。木を使って家を建て、雨は山から清流を作り、その恵みで日本人は生きてきました。そんな木の文化に深く関われる林大生の皆さん！ぜひ誇りを持って頑張って下さい。

元気な森林を作るために

高橋 寛



息子が林大へ進学をし、瞬く間に一年と半年が過ぎ去るうとしている今日この頃、担任の先生をはじめ諸先生方に

支えられ、勉学に勤しむことができること、何とお礼を申し上げればよいか、言葉もございません。さて、森林は国土の保全や水源のかん養など、多面的な機能を有し、様々な恩恵をもたらす「緑の社会資本」と呼ばれています。国土の約七割、長野県に至っては県土の約八割が森林面積であり、この緑豊かな自然是、来訪される皆様に癒しと和み、そして安らぎを与えてくれる、かけがえのない環境資源でもあります。

この課題解決に向けて息子には、林大で学んだことを活かせる、元気な森林（もり）作りのコーディネーターとして、その一翼を担える人材に育つてもらわねばと願うばかりです。

支えられ、勉学に勤しむことができます。この森林を次世代へと繋ぐために、取り組むべき課題が山積していることも現実としてあります。

感謝の心を

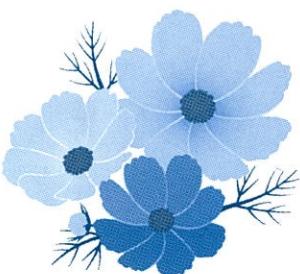
宮入久美子



この場をお借りして、ご指導いただいている先生方、共に歩んでくれているクラスメイト、寮での食事を作つてくださっている皆様にも、御礼と感謝を伝えたいです。皆様に支えられて、一年半どうにか過ごしてきました。本当に

ありがとうございます。うちちは農家だからねと言つて農業高校に通つていた娘が、高二の職場体験で林大のオープンキャンパスに行き、林業を学びたいと言つた時は、正直なところ無理ではないかと思いました。長野県の村で育ち、幼い頃から草木や花の名前を覚えるのが得意ではありませんでしたが、女子、やせ型、非力、色白、どれをとっても林業向きとは思えず、加えて、根性もない強い性格でもない子が続けられるのかと、そして親元を離れての寮生活、大好きなカラオケも百均もない木曽での生活に耐え

られるのかと、大きな不安と心配ばかりでしたが、お陰様で卒業まで数ヶ月となりました。就活も始まり、やはり木に携わる仕事に就きたいと頑張っています。自分で選び決めた道を迷わず進んでほしいと思います。感謝を忘れずに!!ね!!



卒業後



東北森林管理局 総務企画部
内田 朋紘
(第40期生)

林大を卒業してから約二年の月日が経ちました。林野庁職員として入庁し、最初の配属先は青森県であり、今年の



教授
下澤 幸典

有言実行

四月には秋田県の東北森林管理局 総務企画部 企画調整課に勤務しています。私が現在担当しているのは「情報管理係」。公務員が仕事をする前提としてネットワークリーやPCが必要となります。それらを管理し、必要な物品を調達しており、ITの分野にも少し触っています。林業と少し離れましたが、とても良い経験をさせて頂いてます。私からのアドバイスは、嫌なことから目を背けないことです。仕事をしていく上で嫌な仕事は必ずあります。林業とは全く関係ないような仕事をするときもあるかと思いますが、不要だと目を背けないで取り組んでください。必ず自分の身になり、生かされるときが来ます。

学生の皆さんは現在勉強していることが無駄かと思うこともあるでしょう。ですが、やりきってください。勉強の友人や人との縁も大切にしてください。つらいことがあつたときの心の支えになります。私の場合は転勤族となり

権のアドバイス

出が叶わなかつた学生も、ベス

トスコアを更新した者、普段ならあり得ない不運にあつた者と、何度も天を仰いでしまったことはありましたが怪我無く無事に競技を終えることができました。

翌二十二日の決勝大会は途中から雨が降る大変なコンディションでしたが、レディースクラスでは神農千愛さんが三位、ジュニアクラスでは山岡空さんが二位となりました。

また、第三回大会では二位に終わり涙を呑んだ三十九期卒業生の高山亮介さん（有限会社矢守産業）がジュニアクラスで念願の総合優勝を果たし、二〇二三年に開催される第三十四回WLCに日本代表として出場することとなりました。彼は高校時代にテレビで放送されていたWLCを観て大会に出たい思いで本校に入学し、「絶対にWLCに行く」という四年越しの夢を叶えました。

学生の皆さんも、どんなことでもいいので夢や目標を持つてチャレンジをしてもらいたいと思います。

五月二十一日(土)、二十二日(日)に青森県で「第四回日本伐木チャンピオンシップ(以下JLC)」が開催され、長野県林業大学校からはレディースクラスに三名、ジュニアクラスに四名の計七名と多くの学生が出場しました。また、卒業生も三名参加し、「長野林大JLCチーム」

林業大学校では二〇一七年にハスクバーナ・ゼノア(株)との教育連携協定を締結し、毎年二回のトップガン研修ではJLC競技を取り入れた、安

五月二十一日の予選会では、レディースクラス、ジュニアクラスともに一名が決勝進出を果たしました。決勝進

出が叶わなかつた学生も、ベス

トスコアを更新した者、普段ならあり得ない不運にあつた者と、何度も天を仰いでしまったことはありましたが怪我無く無事に競技を終えることができました。

翌二十二日の決勝大会は途中から雨が降る大変なコンディションでしたが、レディースクラスでは神農千愛さんが三位、ジュニアクラスでは山岡空さんが二位となりました。

また、第三回大会では二位に終わり涙を呑んだ三十九期卒業生の高山亮介さん（有限会社矢守産業）がジュニアクラスで念願の総合優勝を果たし、二〇二三年に開催される第三十四回WLCに日本代表として出場することとなりました。彼は高校時代にテレビで放送されていたWLCを観て大会に出たい思いで本校に入学し、「絶対にWLCに行く」という四年越しの夢を叶えました。

学生の皆さんも、どんなことでもいいので夢や目標を持つてチャレンジをしてもらいたいと思います。

や、嫌なことから逃げる人は仕事でも逃げる人だと思います。勉強を通して、思考力、発想力や表現力も育まれていま

す。さまざまな方と接することができます。転勤により皆様と将来どこかでお会いすることもあるかと思います。もしかしたら一

月には秋田県の東北森林管理局 総務企画部 企画調整課に勤務しています。私が現在担当しているのは「情報管理係」。公務員が仕事をする前提としてネットワークリーやPCが必要となります。それらを管理し、必要な物品を調達しており、ITの分野にも少し触っています。林業と少し離れましたが、とても良い経験をさせて頂いてます。私からのアドバイスは、嫌なことから目を背けないことです。仕事をしていく上で嫌な仕事は必ずあります。林業とは全く関係ないような仕事をするときもあるかと思いますが、不要だと目を背けないで取り組んでください。必ず自分の身になり、生かされるときが来ます。

学生の皆さんは現在勉強していることが無駄かと思うこともあるでしょう。ですが、やりきってください。勉強の友人や人との縁も大切にしてください。つらいことがあつたときの心の支えになります。私の場合は転勤族となり

ます。だからこそ場所と人間関係が毎年変化します。さまざまな方と接することができます。転勤により皆様と将来どこかでお会いすることもあるかと思います。もしかしたら一月には秋田県の東北森林管理局 総務企画部 企画調整課に勤務しています。私が現在担当しているのは「情報管理係」。公務員が仕事をする前提としてネットワークリーやPCが必要となります。それらを管理し、必要な物品を調達しており、ITの分野にも少し触っています。林業と少し離れましたが、とても良い経験をさせて頂いてます。私からのアドバイスは、嫌なことから目を背けないことです。仕事をしていく上で嫌な仕事は必ずあります。林業とは全く関係ないような仕事をするときもあるかと思いますが、不要だと目を背けないで取り組んでください。必ず自分の身になり、生かされるときが来ます。

学生の皆さんも、どんなことでもいいので夢や目標を持つてチャレンジをしてもらいたいと思います。

林大生の様子

新しい寮での生活がスタートした新年度も新型コロナウィルス感染症の流行は収まらず、日常行動が制限される中でしたが、林大生は元気に生活しています。地域や地元の皆様との交流も少しずつコロナ禍前に戻ってきています。



木曽こども園児との交流（4月）

4月、2学年が近くの木曽こども園の園児と「駒打ち体験」で交流しました。



アダプト花壇の花植栽（6月）

道路アダプト事業として、学生自治会で学校前の花壇整備を行っています。



新寮食堂での昼食風景（7月）



ハスクバーナ・ゼノア社との協定による
トップガン研修での1学年（6月）

また、5月には、国内・世界最高レベルの林業技術・安全作業を目指し青森県で開催された「第4回日本伐木チャンピオンシップ（JLC）」に、ジュニアクラスで4名、レディースクラスで3名、計7名の林大生が参戦して練習の成果を発揮。決勝大会でジュニアクラス2位が1名（2学年 山岡空さん）、レディースクラス3位が1名（2学年 神農千愛さん）と優秀な成績を収めました。



長野林大JLCメンバー



決勝（マストツリー伐倒競技）